

# 赤部山 -329.62m-

緯度039° 18 20 .780

経度141° 15 45 .777

江刺市梁川赤部

江刺市営バス江刺バスセンターから梁川行 J A 梁川支所前下車

## J A 梁川支所前バス時刻

### 大岳温泉行

平日747, 1357, 1827

日祝日907, 1357, 1827

### 江刺バスセンター行

平日719, 814, 930, 1210, 1429, 1510, 1620

日祝日830, 939, 1210, 1429, 1620

## 晴山バス停時刻

花巻行1320, 1800

ヨーカドー行1210, 1430, 1540, 1700

## 2001年4月30日(晴)

- 924 JR水沢発
- 951 JR花巻着
- 1032 JR花巻発
- 1055 JR晴山着
- 1139 信号機
- 1159 倉沢郵便局
- 1212 人形歌舞伎伝承館
- 1241 柳清水
- 1327 赤部山登り口
- 1344 赤部山頂
- 1426 赤部林道入口
- 1443 赤部堤
- 1459 430m三角点
- 1533 赤部林道入口
- 1559 JA梁川支所前バス停着
- 1625 JA梁川支所前バス停発(¥710)
- 1702 江刺ターミナルプラザ着
- 1720 江刺ターミナルプラザ発
- 1745 水沢駅通り着

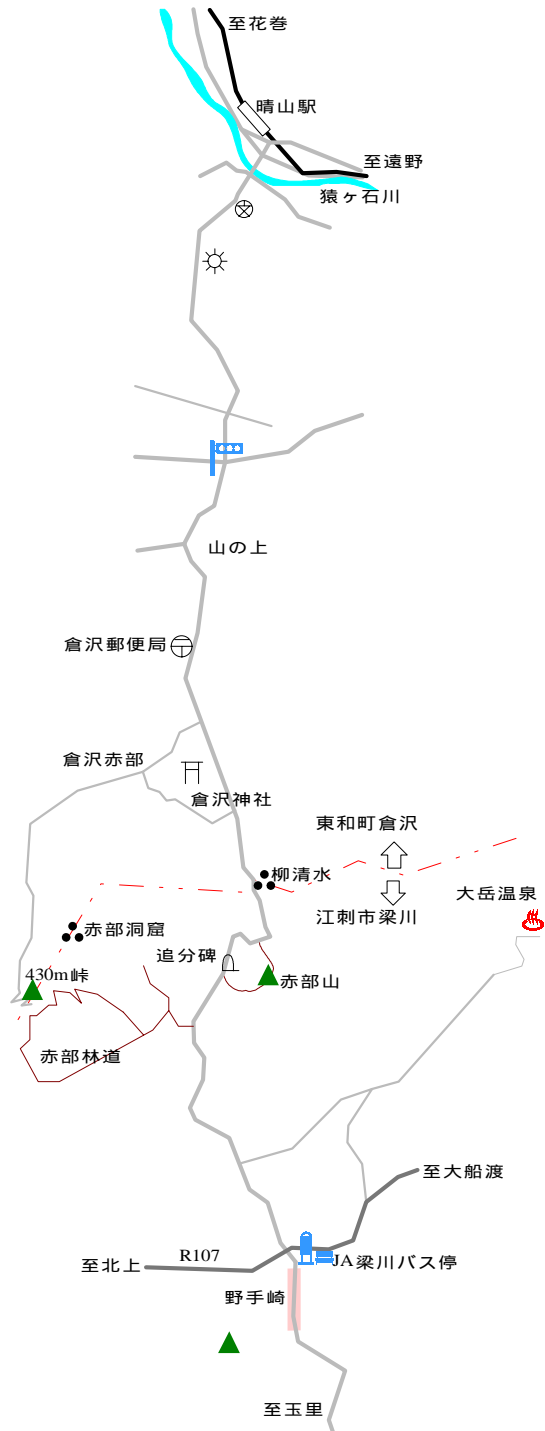


図1 コース略図

訳あって赤部山に登ろうと思った。地形図にはこの山の名称は記載されていない。山頂に建つ三角点

名が「赤部」なので、小生が勝手に赤部山と呼ぶことにした。地形図を見ると山自体は標高が低く典型的な里山なので山頂には容易に到達できそうである。春の北上山系の景色を眺めながら歩くのも悪くないと思った。

JR釜石線晴山駅で下車する。ホームとバス停のような駅舎があるのみ。乗降客は小生一人だけだった。晴山駅近くの旧国道沿いには商店が建ち並び日用雑貨なら不自由しないレベルにある。猿ヶ石川に架かる上瀬橋を渡る。ここから先は梁川まで道なりに進む。谷内小学校、千田精密を過ぎ次第に北上山系らしい緩やかな起伏を見渡せるようになる。新緑を見ながら気持ちよく歩く。倉沢郵便局付近まで来ると左右の山が迫り山里の雰囲気は濃くなってきた。

倉沢赤部の分岐から倉沢神社に寄り道をする。坂道を登ると神社があった。その後方に道が続いていて歩き進むとまた同規模の神社があった。再び梁川に続く道に戻る。藩境の坂を上っていくと柳清水と書かれた標柱が立っていた。「寛永19年(1642)此の清水を以て仙台南部両藩の藩境とした。これより東に登ると二〇〇米の地に藩境石あり。」と記されている。確かに道路の東側斜面の下に清水が流れている。ついでに藩境石も探そうと思いちょうどその地点から東に分岐する林道に入る。ところが、この付近の山中の至る所には大きな岩が転がっていてどれが藩境石なのか判別できなかった。他の場所にあるのかもしれない。後で江刺市立図書館で調べたところ藩境石の写真が載っていたのでもう少し探し回れば見つけることができたのかも知れない。藩政時代は仙台藩と南部藩の仲があまり良くなくこの藩境でも通行人や物資の監視が厳しかったようである。日当たりの良い草場で昼食とした。



写真1 柳清水

藩境を越え南部藩(東和町倉沢)から仙台藩(江刺市梁川)に入る。峠を越えると再び水田が広がる。正面に赤部山が見える。車道は赤部山の山裾で右にカーブする。赤部山に至る登山道がないか注意しながら進んでいくと運良く尾根伝いに斜面を登る道を発見した。全行程藪をかき分けながら進むことを覚悟していたのでほっとした。最初は一直線に斜面を登るがすぐに道は尾根を中心として左右に分岐する。尾根を直登せず左右いずれかから回り込むようだ。左右どちらにするか迷ったが左に進む。次第に藪が濃くなり行く手を阻むようになってきた。ビニル合羽、軍手を身につけ藪こぎに備える。適当なところから尾根を目指そうと思って進んでいくうちにちょっとした窪地にでた。そこから尾根登りに取りかかる。尾根には笹藪が密生していた。藪をかき分け進んでいくと次第に藪が疎らとなり山頂の松林の中に入る。そのまま進んでいくと山頂に至った。山頂は下草が刈り払われ三角点と背の高いアンテナが立っている。展望は西側が開け晴山<=>梁川車道を見下ろす。斜面に咲く桜がちょうど見頃だった。

下山路は西側に幅広い道があるのでその道を下る。



写真2 赤部山南面



写真3 赤部山頂からの眺め

山の中腹は椎茸栽培地となっていた。水田,畑の脇を通り晴山<=>梁川車道にでた。こちらから登ると断然楽である。登山口は畑の南から入る道で,この場所に廃車が3台放置されているのが目印となる。ここから車道を北側へ100m程行くと大萩集落入口に着く。道路の東側にバス停(現在は廃線)と古い標石が立っている。これは藩政時代の追分碑で「左は大き道,右は倉沢」と刻まれている。



写真4 追分碑

車道を南下する。赤部林道の入口に赤部洞窟の看板があった。

#### 旧蹟「箱石」赤部洞窟

是より一五〇〇米の奥に倉沢赤部に通じる峠(標高四三〇)がある。その側に巨岩があり,旧藩境の標石であった。また,この岩に洞窟があり古代人が石鏃(矢ノ根石)の原石を採掘した跡である。  
梁川文化財保存会

洞窟見学に行くべきか,次回の楽しみに残しておくか迷ったが結局行くことにした。林道は最初,水田の中を通る。水田の中に大きな岩が点在し独特の雰囲気がある。赤部集落を過ぎると赤部川沿いの直線道になる。集落があるのに未舗装道路とは今の時代珍しい。赤部堤までは平坦だがその先は上り坂で道

幅が狭くなる。林の中の斜面を登って行きそろそろ尾根に出そうだという所で林道は右に直角に折れる。ここで林の中を直進する踏み跡がありそれをたどっていくと尾根に出た。そこには大きな中継アンテナが2基立っていた。北側すぐ近くに430m三角点を示す紅白のポールがあった。この場所は中継アンテナの建設で山林が切り開かれたせいで里山の峠の雰囲気は全くない。展望もアンテナが邪魔している。アンテナ直下までアスファルト道が到達していた。この道を下ればそのまま倉沢赤部に行くのだろうが初夏の強い西日を受けながらアスファルトの道を歩くと気がしなかった。それに洞窟をまだ発見していない。再び林道に戻り洞窟を探しながらその先を進む。しかし見つからず。しだいに標高が下がってきた。麓に出たと思ったら往路で通った赤部集落だった。ちょうど山中を一周したことになる。後で資料を調べたら洞窟は430m三角点からさらに北側の江刺市/東和町境界上にあるとのこと。また赤部の語源はアイヌ語で清き水の流れる所,赤部集落の旧家の先祖は武田信玄の落人と伝えられているそうである。

帰りは北上山系の景色に浸りながら梁川野手崎まで歩き江刺市営バスに乗車する。終点のバスセンターまで乗客は小生のみ。昨年,県交通バスから市営バスになり経営は大丈夫か心配したが胆江新聞によれば今のところ予想以上の好成績とのこと。

<完>



写真5 市営バスのシンボルは風の又三郎